

# S I P 第 3 期「スマートインフラマネジメントシステムの構築」社会実装に 向けた戦略及び研究開発計画の変更について

令和 8 年 5 月 28 日

スマートインフラマネジメントシステムの構築

プログラムディレクター 久田 真

今般、「スマートインフラマネジメントシステムの構築」においては、研究計画の進捗、SIP中間評価の結果、令和8年度の予算配分の決定等を踏まえ、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」の変更を行いたい。主な変更点は以下のとおり。

## 1 新ビジョンによる将来像の追記

新たな課題への対応と、社会実装の加速と重点化を目指して作成された新ビジョンにおいては、「デジタルツイン基盤」を共通基盤として、「未来の建設技術」から「未来のインフラ」、「未来のまち」へと、Well-Beingな社会を実現していくために、これらを総合的に推進してスマートインフラマネジメントシステムの構築を図る。

## 2 ステージゲートを踏まえた社会実装の出口戦略の設定と再構築

令和 7 年度の間中評価を通して設定した、サブ課題における16の出口の社会実装に向けた戦略及び新ビジョンに基づく社会実装出口の再構築方針を追記。

## 3 新ビジョンを踏まえた研究開発目標の更新

### サブ課題 A（革新的な建設技術の開発）

自動施工における情報流通インターフェースや共通フォーマットの開発に注力し、規格化や試行工事による実装を加速化。

### サブ課題 B（先進的維持管理の仕組みの構築）

デジタル技術の活用を加速し、下水道管路メンテナンスの高度化・実用化に向けた研究開発・社会実装の取組を推進。

### サブ課題 C（地方自治体等の人材の活用）

深刻化する自治体の技術者不足を踏まえ、C-ア（道インフラマネジメント人材育成ツール）に重点化。

### サブ課題 D（デジタルツイン基盤）

データ連携のニーズを踏まえ、生成AIの活用環境としてのインフラデータ基盤の技術開発と社会実装など、課題全体の中核として研究開発を加速。

### サブ課題 E（スマートインフラによる魅力的な国土・都市・地域づくり）

認証制度の国際標準化も視野に入れ、ウェルビーイング、LMC等の推進機構による地域実装、グリーンインフラ認証やクレジットを中心にした社会実装および研究拠点の形成を核としたEBPMマネジメントの社会実装を加速化。

## 4 実施体制の更新

- ・出口単位のうち2つ（高度アナリスト養成プログラム・、地域道路ネットワークマネジメント）をスピンアウト。研究開発責任者を10名から8名に変更し、小テーマも集約。
- ・堀PMの肩書変更

以上